

3 - 14 洲崎沖の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure at the Offing of Sunosaki

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

フィリピン海プレート北端部の地殻活動に関する総合研究のうち、プレート北端部の造構運動の調査研究の一環として、昭和54年9月から11月にかけて、洲崎沖の海底地形・地質構造の調査を実施し、縮尺5万分の1の海底地形図、同地質構造図を作成した。既存の相模湾の成果（連絡会報、25（1981）、69 - 71. 参照）に今回の成果を加えて、第1, 2図をまとめた。洲崎沖の成果はこの図の南端部である。この図により、従来概略知られていた相模湾の地形地質がより詳細に明らかになった。調整域はその性格から、①相模舟状海盆地、②三浦半島沖海域、③伊豆半島沖海域に三分される。

①相模舟状海盆地は、新期の厚い堆積層におおわれ、緩傾斜した平坦な地形が一般的であるが、その中央部には一段と低く溝状の凹地や東京海底谷の末端部が見られ、急崖などを含んでいるので複雑な地形を示す。また海盆地の周縁部で、三浦半島沖海域との境界沿いでは、地形傾斜も急になり、その内部構造も乱れた部分が帯状に見られる。

②三浦半島沖海域は、多数の海丘、海脚、海底谷が北西 - 南東方向と北東 - 南西方向に配列し、沖の北西 - 南東方向の海丘列の北東側には、新期堆積物を取り除けば小海盆が列状に並ぶ。断層等に規制されたモザイク状の地形地質構造が顕著で、複雑な地塊運動の結果を想定させる。

③伊豆半島沖海域は、②三浦半島沖海域に比して単調である。真鶴海丘を境に舟状海盆地が狭まること、熱海沖に湾入部が見られ、火口瀬状に熱海海底谷が流下していることを除き、この海域は急な大陸斜面で特徴づけられる。この斜面は音波探査では、不明瞭ながら比較的単調な内部構造を示す。

（中嶋 逞）



第1図 相模湾の海底地形

Fig. 1 Bathymetry of Sagami Bay.



第2図 相模湾の地質構造

Fig. 2 Geological structure of Sagami Bay.